FocusFlowのコンセプトが、山田健太さんのようなデスクワーク中心のユーザーだけでなく、異なる働き方をするユーザーにも響くかどうか、非常に良い問いですね。特に「落ち着いてデスクワークする時間がなかなか取れない」という点に焦点を当てることで、FocusFlowの真の汎用性と課題が見えてくるでしょう。

では、ご提示いただいた条件に合う新たなペルソナを考えてみます。

## 新たなペルソナ：多拠点移動型・現場重視のフリーランスデザイナー

氏名: 佐藤 陽子 (35歳)

職種: フリーランスのウェブデザイナー兼グラフィックデザイナー

働き方:

* **多拠点移動:** 自宅、クライアントオフィス、コワーキングスペース、カフェなど、様々な場所で作業。移動時間が長く、まとまった作業時間を確保しにくい。
* **現場重視:** クライアントとの打ち合わせや、サイトの最終調整、撮影立ち会いなどで外出が多い。現場での突発的な修正指示やアイデア出しが頻繁に発生。
* **プロジェクトの種類:** 短期的なウェブサイト制作、ロゴデザイン、パンフレット制作、SNSコンテンツ作成など、並行して複数の小さなプロジェクトを抱えている。

### 佐藤陽子が「ToDoリスト」を求めている理由

* **複数の小さなプロジェクトの管理:** 各プロジェクトに付随する無数のタスク（デザイン案作成、修正依頼対応、素材収集、クライアントへの確認連絡、請求書作成など）を漏れなく管理したい。
* **期限管理:** 短期プロジェクトが多く、タイトなデッドラインを常に意識する必要がある。
* **タスクの優先順位付け:** 優先度の高いクライアントワークと、自身の営業・経理業務、スキルアップのための学習などを効率的に振り分けたい。
* **作業の可視化:** 自分が今どのタスクにどれくらい時間をかけているのか、進捗状況を把握し、クライアントへの報告や自己評価に役立てたい。

### 佐藤陽子が「PKM」を求めている理由

* **デザインアイデアのストック:** 日常的にインスピレーションを受けたデザイン、ウェブサイトのUI/UX事例、配色パターン、タイポグラフィのアイデアなどを瞬時に記録し、後でプロジェクトに活かしたい。
* **クライアントからのフィードバックや要望:** 打ち合わせ中の口頭での指示、メールやチャットでの修正依頼などを一元的に管理し、デザイン制作の文脈と紐づけて記録したい。
* **技術的な学習メモ:** 新しいデザインツールやコーディング技術、マーケティング知識などを学んだ際のメモを整理し、いつでも参照できるようにしたい。
* **プロジェクトごとの知見:** 各プロジェクトで得られた学び（成功事例、失敗から得た教訓、特定の業界の知見など）を形式知化し、今後の案件に役立てたい。

### 佐藤陽子が「落ち着いてデスクワークする時間がなかなか取れない」状況

* **頻繁な移動:** 毎日異なる場所へ移動するため、PCを開いてじっくり作業する時間が細切れになりがち。
* **突発的な対応:** クライアントからの急な電話やメッセージ、現場での予期せぬトラブル対応などで、集中が途切れることが多い。
* **細切れの時間活用:** 電車での移動中、カフェでの待ち時間、打ち合わせの合間など、わずかな時間を効率的に使ってタスクを進めたい。
* **デバイスの使い分け:** 自宅ではPC、外出先ではタブレットやスマートフォンを中心に作業するため、デバイス間のシームレスな連携が必須。

佐藤陽子さんのようなペルソナは、山田健太さんとは対照的に、\*\*「常に動きながら、いかに効率的に情報をキャッチし、タスクを進め、そして知的資産を蓄積していくか」\*\*という課題を抱えています。FocusFlowがこのペルソナに対して、どのような価値を提供できるか、今後の議論で深掘りしていきましょう。